

# 柏崎刈羽原子力発電所では津波への対策を進めています

福島第一原子力発電所における事故、および放射性物質の漏えいにより、地域の皆さまに大変なご心配とご迷惑をおかけしておりますことを心より深くお詫び申し上げます。

柏崎刈羽原子力発電所では、今回の福島第一原子力発電所での事故を踏まえ、これまでの想定よりも大きな津波が来ることを前提に、その場合でも原子炉などが安全に冷却できるよう、下記の安全対策を実施しました。

(実施状況は3月31日現在)

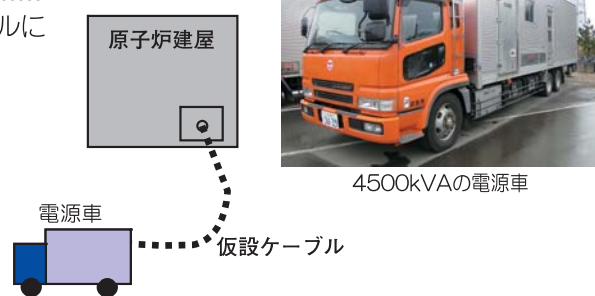
## 電源がなくなった際の対策



## 非常時の電源確保

電源がなくなった際でも、原子炉や使用済燃料プールに注水するポンプに外から電力を供給します。

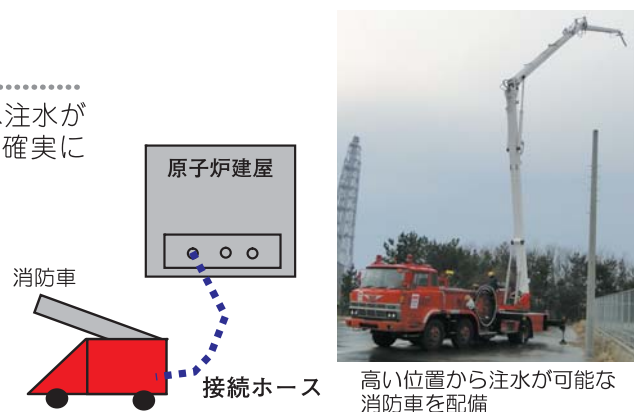
- ◆4500 kVAの大容量電源車：1台
- ◆500 kVAの電源車：4台
- ◆エンジン付発電機（45～350kVA）：5台
- ◆仮設ケーブル（15m～300m）：約20本



## 注水機能の強化

電源がなくなり原子炉や使用済燃料プールへ注水ができなくなった場合でも、消防車によって確実に注水します。

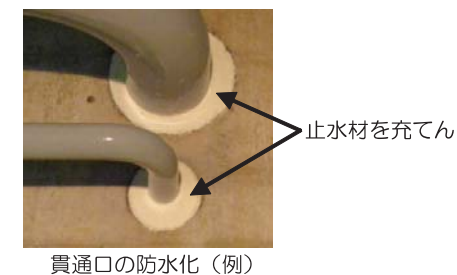
- ◆消防車：5台（2台は手配済）
- ◆接続ホース：140本（40本は確保、100本は手配済）



## 建物の防水性の改善

津波により重要な機器が水没しないように建物の防水を徹底します。

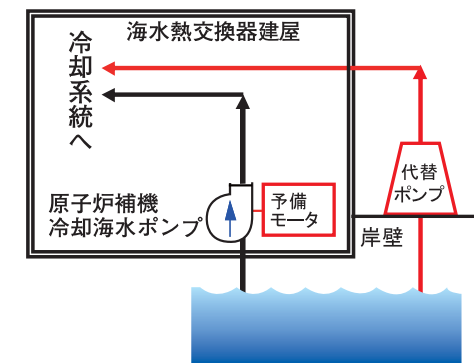
- ◆原子炉建屋、海水熱交換器建屋の外部扉を防水化：80箇所
- ◆配管やケーブルを通す貫通口の防水化：75箇所（12箇所は実施予定）



## 冷やす機能の強化

海水熱交換器建屋（海水を利用して冷却する海水ポンプ等の設備が入っている建物）が水没した際の冷却機能を確保します。

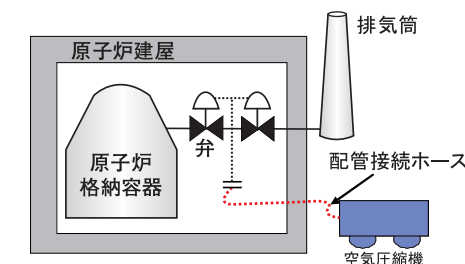
- ◆可搬式の代替ポンプ：8台（4台は手配済）
- ◆水没した際に交換する海水ポンプ用モータ：15台（12台を手配済）



## 原子炉格納容器の減圧機能の確保

電源がなくなった際にも原子炉格納容器の圧力を下げる弁を動かせるように、空気ポンプや可搬式の空気圧縮機から空気を供給できるようにします。

- ◆空気圧縮機：4台（手配済）
- ◆配管接続ホース：4本（手配済）



今後、建屋内への更なる浸水防止や代替電源の確保、訓練の実施など、安全性向上を図ってまいります。